

## 第5回 信楽中央病院部会 議事概要

文責 部会長 岡村謙平

日 時 令和4年10月31日（月）14時～15時30分

場 所 信楽地域市民センター 2階 会議室

甲賀市地域医療審議会に諮問のあった3項目に関し、信楽中央病院について具体的議論が始まった第6回以降の審議会において交わされた意見を示し項目ごとに部会委員の考え方を確認した。

### ① 病院に求められる役割について(全体的に)

委 員

信楽地域の訪問看護利用者約100人のうち、7割くらいは信楽中央病院の患者さん。中央病院は訪問診療があり、高齢化が進んでいる信楽地域の現状に合った利用しやすい病院として患者さんの評価は大変高い。

委 員

総合的に診ていただける病院(総合診療科制)が地域に有るのはそこに住む人にとって一番良い。高齢者対策に併せ、子ども対策ということでも地域で安心して子育てができ少子化の歯止めになる。ただ、地域に病院は必要であるが、経営を考えつつ病院の維持に努めていくことが求められる。

委 員

もう一つ町内にある病院は、次年度から医師が大幅減になるとのうわさがある。これまで以上に中央病院の存在感が増す。

### ①—1 救急について

事務局

現在の受入体制

時間内 初診対応医師と外来担当看護師(3名の内2名)が対応

時間外 当直医と病棟看護師(2名の内1名)が対応

〃 当直医が入院患者に対応中は受入れ不可

〃 放射線検査・臨床検査が必要な症状には対応不可

救急患者受入れ状況

第7回審議会事務局が報告した救急受入れ実績は、甲賀消防の

救急車による搬送のみであり、他府県の救急車(近隣の三重県等)や救急車を利用せずに直接来院した患者数は含んで(カウントして)いない。

中島院長 「一次救急の確保について、職員の思い」

できれば町内で解決できる救急に関しては当院で処理したい。

一方、医療の発展に伴い高度先進医療に早くつなげていくことも我々の重要な責務になっている。

救急車受入不可の実態は、時間外等で受け入れ態勢が整っていないこと(医師・看護師は当直者のみ、医療技術部職員は当直配置無し)により病状に対応できないため。

ただ、高齢者の在宅の患者さんの救急対応はできるだけ当院で引受けるよう心掛けている。

この項、委員より、特段の発言無し

## ①—2 人工透析について

事務局 透析導入に関し、必要となる設備・コスト等について説明。

- ・機器整備にかかる初期投資 10床で8,000万円
- ・採算ベース 透析患者 30人
- ・透析専用スタッフ(医師・看護師・臨床工学技士)の確保が必要
- ・昼夜患者対応、患者送迎体制が必要(車両、運転手)
- ・甲賀保健医療圏の透析治療実施医療機関は2病院+2クリニック
- ・信楽の透析対象者として、市で確認できるのは国保と後期高齢者医療の加入者のみ、社保加入者は確認できない。

委員

甲賀保健医療圏全体の枠で透析患者の受け入れを考えるべき

甲賀保健医療圏内4カ所の医療機関で信楽の患者さんが何人治療を受けているか。

委員

手を広げていけば医業収入も増えると思うが、相当な初期投資やランニングコストが必要であり、そんなに効果がないのではと思う。

委員

諸々のことを考えると、信楽中央病院で人工透析に踏み込んでいくのは無理かなと思う。甲賀保健医療圏で既に透析治療を実施しておられる4カ所の医療機関で対応いただくのが良いのではないかと。

## ①—3 レスパイト入院の受け入れ、他の病院との連携等について

中島院長

中央病院が担当してきた訪問患者さんについては、今までからレス

パイト入院を受け入れてきた。最近になって、水口でレスパイト入院したいが受け入れ先が無いので、遠いが信楽でも受け入れてくれるなら希望したいというケースがあると聞いている。今後対応していくべきだと思う。

レスパイト入院の必要な方がおられたら「どうぞ」と営業していくような意識改革も必要だなと思っている。

2週間程度受け入れる体制については、今までの病床の空き具合からいくと、受け入れは可能です。

#### 委 員

訪問看護事業者の方々に対し、信楽中央病院でこのようなことも対応できると周知することによって、在宅患者さんのご家族にも知っていただけたと思う。

レスパイト入院に加えて、病々連携・後方支援についても体制の検討を始めていただくべきかなと思う。

\*この意見に関しては、中島院長からも同様の考え方が示されている。

### ①—4 夜間診療、休日診療について

#### 中島院長

医師の働き方改革が地域の病院に義務づけられ、月6回程度当直を行いつつながら、並行して夜間診療を行うのは労働条件上困難です。

#### 委 員

昼間働いておられるお父さん・お母さんからすると、夜間診療も必要な部分があるのかなと感じるが、どこの病院も非常に難しいのが現実だと思う。

#### 委 員

働き方改革は、民間の企業でもまずこれをしていかないと従業員が集まらない。公立病院であっても、働き方改革はきちっとしていかないといけない。

### ② 経営の課題・対策

### ③ 経営形態

#### 委 員

山間部の中で住民が孤立をしない、住民が問題を抱え込んだままにしないという意味で、中央病院は大きな役割を持っていると思う。

経営上の観点だけで、もしも民間委託を考えるとという議論をされるなら、大きな問題かなと思う。少子化も高齢化も進んでいく中で、公的責任というところで安心できる柱として、中央病院の大事な部分があると思う。

信楽中央病院は市立病院だからこれからも診てくれるという安堵感を地域の皆さんは持たれていると思う。

委 員

経営改革と患者さんの確保を病院が全面に打ち出して対応していただくことが必要。そうすることによって、住民の皆さんも中央病院があつて良かったという感じを持たれると思う。

前にも出たが、甲賀病院を除いて市立病院は旧 5 町の中で信楽にしかない。甲南町・甲賀町・土山町には市立あるいは公立の病院はない中で、信楽中央病院だけ一般会計から多額の繰り入れを続けていくということは、3つの町の皆さんにも公表する必要があると思う。

その為にも、市内の患者さんのレスパイト入院の受入あるいは後方支援もどんどん進めていく中で、信楽中央病院が市立である必要性が打ち出され、経営形態を諮問されることもなくなると思う。

委 員

経営形態の話ですが、もうだめというわけではなく、健全な危機意識を持っていただければ、経営の効率化が優先してくると思う。

今ある人・物・金を使って、どうやって生き残りを図っていくかが先かなと思う。

委 員

全職員で、経営意識を再度きちっとお持ちいただくように院内で徹底を図っていただきたい。

委 員

コロナ第7波の対応に際し、スタッフの方々には大変ご苦労いただいた。今後、インフルエンザとコロナの同時流行が発生した場合、中央病院だけでは対応できない事態ともなりかねない。地域の方々の命を守るため、市の執行部においては十分な支援体制をとっていただくようお願いする。